

■大島高任 鉱山・冶金技術者。釜石に日本初の洋式溶鉱炉建設し銑鉄出銑に成功し、近代製鉄技術の礎を樹立。

おおしまたかとう

・・・・・・1826＝ 陸奥国盛岡で、南部藩侍医大島周意の子に生まれる。

シボール事件・1828＝ 2歳：

滑稽+人情本 1835＝ 9歳：

大塩平八郎乱1837＝11歳：

天保改革弾圧1842＝16歳：江戸に出て、箕作院甫と坪井信道について蘭学を学び、

天保改革終・1844＝18歳：

阿部正弘首座1845＝19歳：

ビートル来航・1846＝20歳： 藩命によって長崎へ遊学、医学修業だけでなく、兵学・砲術・造兵技術も研究する。

国定忠治疎・1850＝24歳：この頃、既に3種類もの訳書が出ていたヒュゲニン著大砲鑄工技術書「西洋鉄煩鑄造篇」を、改めて学友の手塚律蔵と共にを訳しながら学び、

ペリー来航・1853＝27歳：\*水戸藩重役藤田東湖に招かれ、反射炉築造計画に協力。  
佐賀藩の例で、砂鉄銑では鑄鉄が困難と知っていたことから、 鉄鉱による銑鉄生産を目指し、南部藩釜石に鉄山を開発し、日本最初の洋式高炉を建造、

蕃書調所・・1857＝31歳：\*銑鉄出銑に成功して、日本の近代製鉄技術の礎を樹立。今日12月1日を“鉄の記念日”とする由縁となる。

桜田門外変・1860＝34歳： 幕府から蕃書調所教授手伝の出役を命じられ、

遣欧使節・・1861＝35歳： 藩校日新堂を興し、人材の育成にあたる。

生麦事件・・1862＝36歳： 米国鉱師バンペリーとブレークが鉱物調査に箱館にくると、鉄山学伝習のため派遣され、箱館奉行は諸術調所を設け、1年間鉄山学校を開いた後、坑師学校設立準備を命ぜられたが、実現しなかったらしい。

明治維新・・1868＝42歳： 維新後、

版籍奉還・・1869＝43歳：\*新政府に出仕、鉄山権正に就任するとともに、高任と改名。

廃藩置県・・1871＝45歳： 岩倉具視の遣外使節団に加えられて、欧米鉄山を視察し、

明治6年政変 1873＝47歳： 帰国。

佐賀の乱・・1874＝48歳：\*官営釜石製鉄所の立地計画で、お雇い外人技術者ピヤンヒと対立し、現場を去る。

・・・・・・1880＝54歳：

明治14年政変1881＝55歳：

内閣発足・・1885＝59歳： 日本鉄業会初代会長に推され、

帝国憲法発布1889＝63歳：

日清戦争始・1894＝68歳：

政党内閣初・1898＝72歳：

田中正造直訴1901＝75歳： 没した。